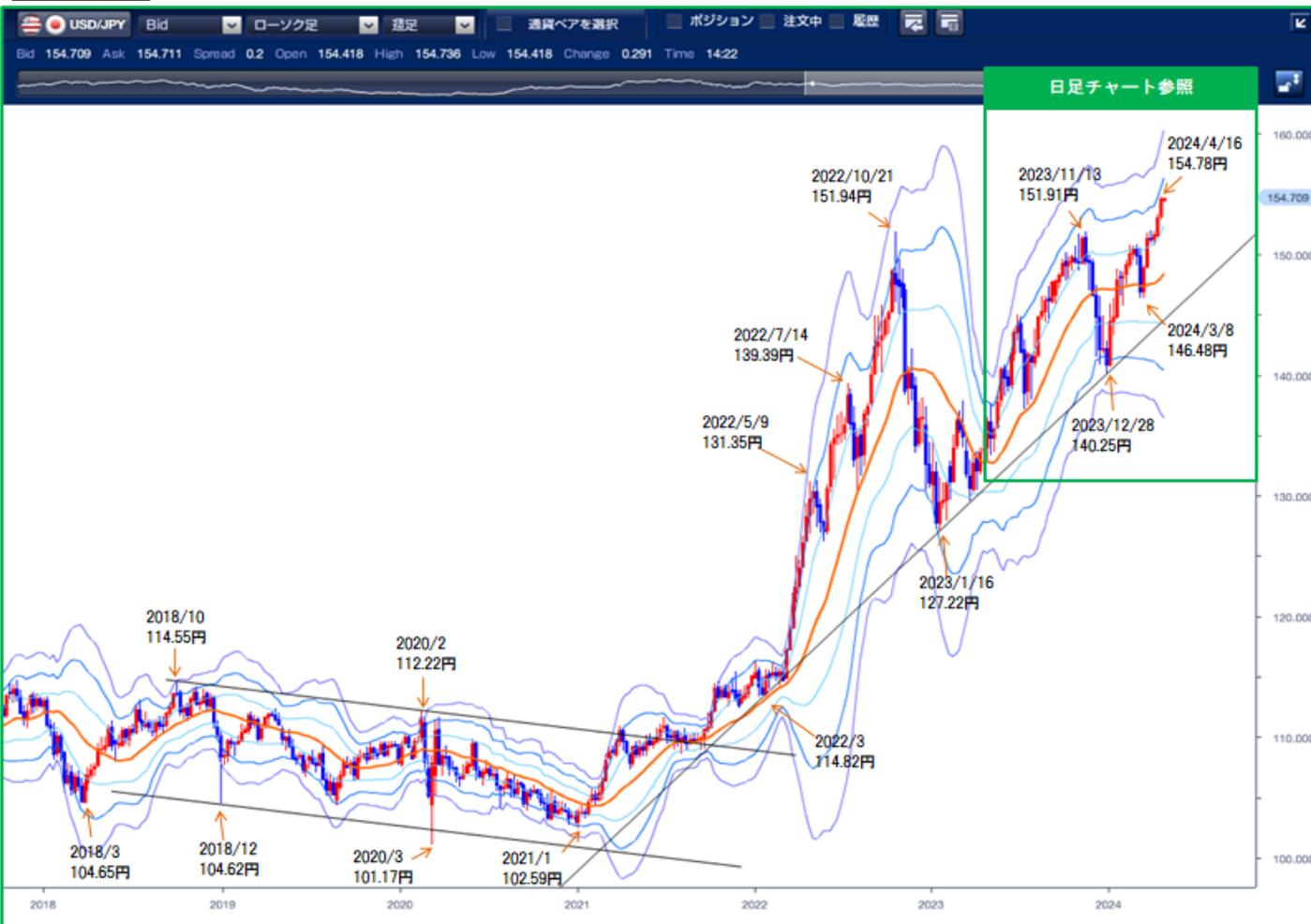


週足



長期概況

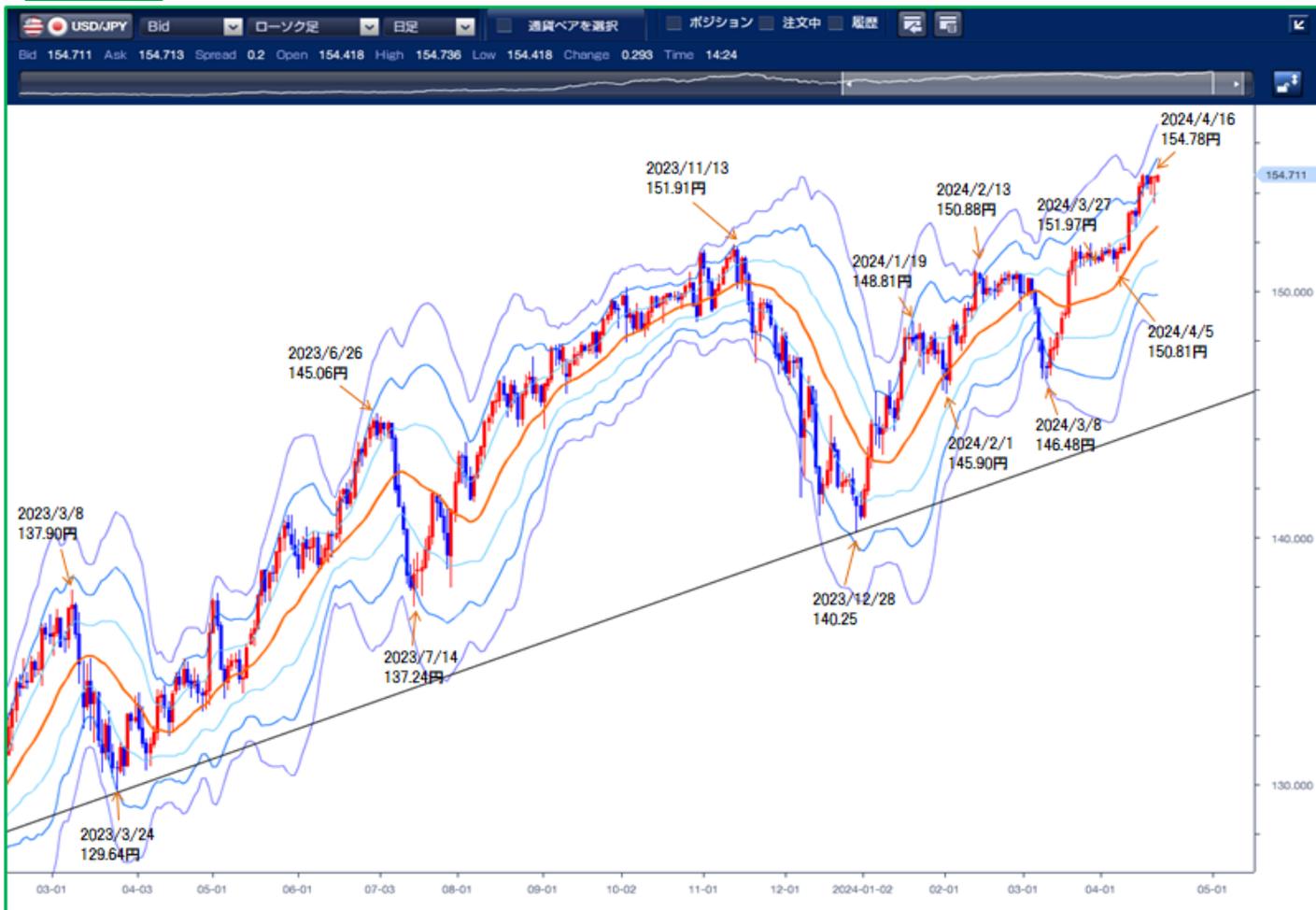
2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、米インフレ率の鈍化を理由に127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景に、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。2023年末にかけて日銀による金融政策変更観測やFRBの利下げの思惑により140.25円まで下落したものの、3月日銀会合で17年ぶりとなる利上げが決定されたものの、緩和政策は維持されると見方から緩和政策は維持されると見方からドル買い円売りが優勢となり、そのドル買いの流れは継続し、4月には1990年以来的の高値となる154.78円まで上昇しました。

【2024/4/15~4/19】

4月第3週のドル円は、1990年6月以来、約34年ぶりの高値を連日更新する堅調な値動きとなりました。パウエルFRB議長が「インフレが根強くインフレ2%回帰を確信するには、これまで予想していたよりも長い時間が必要になる可能性が高い」と発言し、利下げ時期の先送りを示唆したことで、154.78円まで上値を伸ばしました。その後、イスラエルのガラント国防相が「イランへの報復以外に選択肢はない」との見解を示したことで一時153.87円まで急落しましたが、「有事のドル買い」の影響もあり、再び154.60円台まで切り返しました。週後半には、中東情勢を背景としたリスク回避の円買いドル売りが優勢となり、153.60円まで急落する場面がありましたが、「イランに対するイスラエルの攻撃は核施設を標的としたものではない」との報道により、地政学リスクが後退し、154円台を回復しています。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が穏やかな上向きとなっており、上昇を示唆しています。
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が横ばいで、もみ合いを示唆しています。
 以上のことから、4/22~4/26の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 152.59円~156.80円

注目レート		テクニカル
上値②	156.80	・日足ボリンジャーバンド +3σ 近辺
上値①	155.40	・日足ボリンジャーバンド +2σ 近辺
下値①	153.60	・4/19安値
下値②	152.59	・4/12安値

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。